

平成 24 年度新宿区外部評価委員会第 3 部会 第 12 回会議要旨

<開催日>

平成 24 年 10 月 4 日（木）

<場所>

区役所本庁舎 3 階 302 会議室

<出席者>

外部評価委員（5 名）

名和田委員、荻野委員、斉藤委員、中原委員、山田委員

事務局（3 名）

山崎行政管理課長、大竹主査、担当 1 名

<開会>

1 個別目標評価について

【部会長】

第12回第3部会を開会します。

本日は前回に引き続き経常事業評価の部会の意見を取りまとめますが、その前に個別目標の外部評価手法について話し合いたいと思います。

まず事務局からこれまでの経緯等についてご説明をお願いします。

【事務局】

はい。

最初に区の計画における個別目標の位置づけについてご説明します。

区の計画の構成というのは、まず基本構想があり、その下に総合計画があります。総合計画はまちづくり編と区政運営編にわかれ、それぞれに個別目標という体系がございます。個別目標下に基本施策があつて、その下に計画事業、経常事業といった事業がある、こういう体系で、新宿区は実施しております。

個別目標というのはまちづくり編で20個、区政運営編で5個あります。

次に個別目標評価の経緯についてご説明します。

個別目標の内部評価は21年度と22年度実施しております。23年度は、外部評価委員会から出された答申「経常事業の評価手法について」を踏まえ、個別目標評価は実行計画終了時等の節目で行うこととなったため実施しておりません。

内部評価の手法は、個別目標を構成する個々の計画事業の評価内容を分析するとともに、計画事業と同じ4つの視点から評価を行い、今後の方向性を整理するものです。

個別目標は、計画事業と経常事業両方から成り立っていますが、経常事業評価は4年で一通りを評価するため、個別目標を構成する全ての事業について評価をしておりません。

個別目標の外部評価については、前期の外部評価委員会においても、その重要性を認識しており、検討を続けてきたところですが、計画事業と違い、計画の最終年度の目標しか設定されておらず、毎年度の目標が設定されていない個別目標を客観的に評価する手法は、まだ模索している状態にあります。

過去においては21年度に各個別目標評価に対する意見ということをもとめた形になっています。22年度は個別評価に対しての意見は記載しておりません。23年度は内部評価を実施しておりませんから、当然外部評価も実施していないということです。説明としては以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

個別目標の外部評価手法については、今年度外部評価委員が改選されたこともあり、十分に検討が出来ていない状況にあります。そこで、21年度の手法に準じた形として、評価は行わず、内部評価に対して意見を出す形式でまとめたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

具体的には、部会長が各部会の担当する個別目標に対する意見案を作成し、各委員が内容を確認したうえで追加・修正・削除すべき部分がないかご意見を出していただき、そのご意見を踏まえて最終的に三部会長で取りまとめる流れを想定しております。いかがでしょうか。

【委員】

個々の事業を評価したものを統括した表現でまとめるということですよ。

【部会長】

そうですね。

【委員】

現時点ではそういう方法しかないと思います。「そもそも、こういう政策の方向性があるのか。事業のあり方でいいのか。」という議論になってしまうと思います。それは当委員会の範囲を超えて、議会の役割に近くなってくるのではないかと思います。また、時間的、労力的な問題からも、部会長のご提案された以上のことを行うのは無理があると思います。

【部会長】

ありがとうございます。ほかの委員もいかがでしょうか。

【委員】

例えば、特定の個別目標に絞って議論をすることは可能でしょうか。

【事務局】

ご議論いただくことは出来るかもしれませんが、「評価」ということになると、かなり厳しいです。

【委員】

今年初めて委員になった人も多いわけですから、今回はこれが限界ではないでしょうか。

【部会長】

では、今年度はそのように行いましょう。ただ、外部評価の手法については今後検討が必要ですね。次回の個別事業評価は4年後になりますから、来年度以降の検討課題だと思います。

2 経常事業評価について

【部会長】

では本題の取りまとめに入りましょう。

537番の「新宿ビズタウンネット」です。これは、事業の方向性というところで意見が分かれています。

私も、事業の方向性について「適当でない」と評価しています。ヒアリングで事業説明を伺ったときに、所管課としてはかなり危機感をもっておられることがよくわかって、かつ手段の妥当性と効果的効率的について「要改善」と内部評価されているのですが、ならば、事業の方向性も、それに見合っ「手段改善」ということになるのではないかというのが、私の意見です。

ただ、「要改善」という意味が、今よりもっと頑張るという意味であれば、事業の方向性は継続ということになるのかなという気もします。その辺のところについて、皆さんがどのように考えられたかお話を聞いてみたいのですが、いかがでしょうか。

【委員】

私も同じように思っていて、手段の妥当性や効果的効率的を「要改善」と内部評価しているのに、具体的な改革改善について何も記載がないことに違和感がありますということで、「適当でない」としました。

【委員】

私も同意見ではあります。私の意見は総合評価のところで書かせていただきました。

これは産業政策の事業ですが、産業政策上の意味づけに合致した事業運営がなされているかどうか、内部評価を見てもはっきりしません。はっきりしないということで、もう少し辛めに評価をすれば「適当でない」ということになるでしょう。しかし、一方で、動画の配信等について色々工夫されているような感じもするので、「適当である」としました。

【委員】

それは、総合評価を「要改善」、事業の方向性を「手段改善」にしたほうが良いということでしょうか。

【委員】

私としては、まず、総合評価のところで「適当でない」としたかったのですが、そのときに、手段の妥当性や効果的効率的について所管課が「要改善」と内部評価していたので、それをよしとして、総合評価について適当であると内部評価しているのに対して、あえて「適当でない」とするところまで踏み込まなかったということです。

ですから、事業の方向性のところで意見がわかれています。私としては、それ以前のところで考えたということです。基本的には同じ考え方だと思います。それをどこに、どういうふうを書くかというだけのことでしょう。

【部会長】

私は、先ほども申し上げましたが、ヒアリングのときに、所管課が非常に危機感をもっておられたのが伝わってきたので、そこまで思っているのだったら、事業の方向性を単純に「継続」とすることはないだろうと思ったので、あえて「適当でない」にしました。

記述の仕方としては、今の3人の委員の意見をまとめることとして、事業の方向性を「適当でない」のほうにするということによろしいでしょうか。

では、そのようにしたいと思います。

あと、ほかにも色々意見が書いてありますが、これは、その意見の趣旨を活かして、事務局にまとめていただくことにいたしましょう。

では次、538番の「新宿ビズタウンニュース」です。

まず、「効果的効率的」を「適当でない」とした委員にご発言いただくことといたしましょう。

【委員】

事業の目標・指標に年度内発行数をあげていますが、言ってしまえば、これは、年間にこれだけ発行しましたということだけなので、それをもって効果的効率的であるとするところに違和感があったので、「適当でない」としました。

【部会長】

私も似た印象をもちました。事業の目標・指標の備考のところは、「不特定多数の購読者に向けて発信しているため、成果指標については、経年的な指標作りが困難です。」とありますが、これはやや納得がいかないという感じですね。ほかの委員のご意見はいかがですか。

【委員】

私は、総合評価のところ意見をつけさせていただいたのですが、内部評価を見ても、産業政策上、この事業が情報発信機能として重要な役割を果たしているという意識が必ずしも感じられなくて、ただやっているというように見てとれたので、「適当でない」としないまでも、意見としては少し厳しめに書いたということです。

【部会長】

他の委員はいかがでしょう。

【委員】

この事業の対象は特定の方であり、一般の方向けではないのでしょうか。ただ、やはり、ビズタウンニュースを拝見したときに、私としては、見てもいいなと思いました。だから、一般の方たちに向けても情報発信するという意味で、アナログ面にも力を入れたほうがいいのではないかと思います、意見をつけました。

【部会長】

他の委員も、同じような意見を書いていますね。

【委員】

私も同じような意見を書きました。この事業というのは、やはり意味があるというか、非常

に大事な情報源だと思うので、ただ作るだけではなく、情報を広く発信するということをもっと考える必要があると思います。また、費用対効果を考えれば、いわゆる無駄みたいなことにもなりかねません。なので、この指標のままだと改善のしようもないのではないかということを感じました。

【委員】

以前、私はビズタウンニュースに載ったことがあります。ビズタウンニュースは、商店街の会合や商工会議所などで配られるので、自分がビズタウンニュースに載ったことをいろんな方に話したのですが、まったく見てないという返事ばかりでした。

かなり多くの人に聞いたのに誰も見ていないということは、ビズタウンニュースを発行するという指標だけでは、その事業を測ることはできないのではないかと思います。もう少し、他にやりようがあるのではないかと思います。

【部会長】

そうすると、やはり、効果的・効率的のところでは何か一つ意見をつけたほうがいいようですね。ここは、「適当でない」としましょうか。

せっかくきれいな紙媒体のものを出しているのに、その効果を測る指標があまり工夫されていなくて、結果として、誰も読んでいないみたいなことが放置されているということが、もしあるとするならば、それはやはりよろしくないのではないかと思います。ここで、「適当でない」とするのは、いかがでしょうか。

【委員】

そうですね。

【部会長】

それでは、「効果的効率的」は「適当でない」として、みなさんの意見をまとめて記述することといたしましょう。

では、これで評価が分かれた事業の取りまとめは終わりました。次からは、評価が全て一致している事業の取りまとめに入りたいと思います。

まず、8番の「地域協働事業の支援」です。これは、評価は一致しているものの、たくさん意見が書かれているので、そこを調整していきたいと思います。各委員に自分の意見を説明していただきましょうか。

【委員】

事業の目的のところに、「地域のコミュニティ団体等の活動を支援し、地域住民の交流参加の促進と連帯感の醸成を図ることを目的としています」とあります。ヒアリングの際にお話を伺ったところ、実際に事業を選定するときには交流参加促進度で図っているということですが、新規助成団体割合を事業の指標として設定していることと、ずれがあるのではないかと感じました。例えば、事業選定のときのように、交流参加促進度というところを指標にしたほうが、合うのではないかという気がしました。

【部会長】

事業の目的と指標にずれがあるのではないかということですね。

【委員】

所管課は手段の妥当性を「要改善」と内部評価していますが、新しい団体を掘り起こすために、もっと何とかしなければいけないと考えて「要改善」だと考えたのであればいいのですが、内部評価を見ても、そこが明確ではないので意見を付けました。

少なくとも、今の指標を見る限りは、新規助成団体をもっと増やすという方向の改善をするのだろうと思いました。しかし、事業目的を踏まえれば、ずれがあるのではないかと思います。加えて、地区協議会の役割や予算、関連事業など、いろいろなものがある中で、それぞれがそれぞれの方向を向いているような印象をもったので、そのようなことを言いたくて、意見を付けました。

【部会長】

地区協議会自体が色々な活動団体が集まるプラットフォームみたいなものだから、そこに新しい団体が加わってくることを展望しているということではありますよね。

意見を素直に結合していけば、部会としての意見にまとまるのかどうかを、今確認しているのですが、全員の意見が大体同じ方向性なのであれば、事務局に取りまとめていただいて、部会長が後で確認することにしたと思います。なので、各委員の意見が同じ方向性かどうか、確認していただきたいのです。

【委員】

内部評価の改革改善の内容について、新しい団体の掘り起こしをしなければならないということと、基本的な地域活動の活性化への支援を行っていくということを併せて書いているので、この2つがバランス良くきちんと行われるのであれば、この評価で良いということになるのではないかと私は思いました。

部会全体も、そういう方向性で、各自意見を付けているのではないかと思うのですが。

ただ、今、委員が言われたように、事業の指標だけを見ると、その2つがバランスとれて行われているどうか分かりづらいです。今、指摘されているのは正に的を射ていて、そういった点からすれば、そういった指標がないと改革改善の内容にあることを前提とした基本的な事業運営姿勢というものが出てこないもので、そうすると外部評価できないということになるのではないかという気がします。

【部会長】

では、そういう問題提起的なトーンで皆さんが意見をお書きになっているのであれば、事務局に各意見をまとめていただきましょうか。

例えば、受益者負担についての意見などは、手段の妥当性についての意見と内容がほとんど一緒なので、どちらかに統一すればいいと思います。このような作業をやっていってもらえば大丈夫でしょう。いかがでしょうか。

【委員】

すみません。類似・関連事業のところに意見を付けましたが、それは取り下げさせてくださ

い。

【部会長】

わかりました。では、後は事務局に作業していただいて、部会長が確認するというようにしたいと思います。

では、541番の「内職相談」に入りましょう。全員が適当であるとしていますが、いくつか意見が出されています。ご説明いただけますでしょうか。

【委員】

私が申し上げたかったのは、内職相談ということの歴史的な意義は、今日的には低下しているということなのかもしれませんが、しかし、今後経常事業として改善しつつ、歩を進めるといふ、その姿勢には共感するところがあったので、そのような評価をしました。要は、「要改善」としているところに対して、「適切である」というふうに評価をしたということです。

ただ、改善する内容や方向感について、いまひとつ明確でない部分がありますが、しかし、それは区側で一方的に方向感を定めるということではなくて、住民からの期待感、あるいは内職仕事を出す側の仕事の内容、今日的な経済状況など、そういったものを踏まえて事業の方向性を整理して行ってほしいと思います。

そういうことがあったので、新宿区勤労者・仕事支援センターに統合するという点については、時代に合ったものかもしれませんが、そのことで今まで果たしてきた役割に沿うようなものとなっていくのかどうかというあたりは、すこし心配に思います。

【部会長】

そのあたりのご心配は、他の委員も意見としてお書きになっていますね。

【委員】

私の場合は、所管課が「要改善」と評価しているので、自分も何か意見を書かなければいけないと思って書きました。

【部会長】

委員の皆さんの意見としては、「要改善」と内部評価すること自体は良いが、公益財団法人に事業を統合する際にはしっかりやってほしいということですね。

【委員】

今、お話を聞いていて、そのとおりだなと思いました。統合すればこういう良いことを目指すことができる統合するというようなことを、内部評価の中でもっと論じてほしかったです。

【委員】

ただ統合しますというだけで、統合する先の展望が見えないということでしょうか。

【委員】

そうですね。そこまで書かなくてもいいものなのかもしれませんが。

【委員】

社会的な変化を受けて、内職の範囲が広がることによって、この事業を直営事業としてやっていくことについての困難もあるかもしれないけれども、区は頑張っていてほしいと

いう程度の応援をしておくというあたりが、外部評価委員会としての立場の限界ではないかと私は思います。甘いといわれるかもしれませんが。

【部会長】

では、専門性を持った民間の組織に統合するのはいいと思うが。ただ、その後もきちんとやっていってほしいという趣旨の意見をつけることにしましょうか。

次の事業にいきたいと思います。次は、527番の「商工相談」です。

【委員】

効果的効率的のところ、いろいろと幅広く助言をしていくということを書いているのに対して、目的又は実績の評価のところでは、資金繰りの改善につながっているということを書いています。この事業というのは、中小企業者が色々相談できるようにするもので、資金繰りの改善というと、何かどこかの金融機関の一助を区が行っているというふうに見えるので、もう少し内部評価の書き方を考えたほうがいいのではないかと思います。

【部会長】

同じような趣旨の意見を、他の委員も書いていらっしゃいますね。

【委員】

そうですね。サポートを受けた側にとって役に立ったかどうかということが、本来的には需要の質を一番上げるものではないかという感じがします。確かに、制度融資利用の効果で事業を測るのもよいとは思いますが。

【委員】

産業振興課には、もっともっと頑張ってくださいと思います。商工相談や融資など、色々な取組みを行って商業者を育てていかないと、区の財政に関わることになるので、もっと頑張してほしいです。

【部会長】

そうすると、区の目的意識をもっと明確にして内部評価したほうがよいというご意見を核にしなが、商工相談を総合的で充実したものにする必要があるということを部会の意見として付けることとしましょうか。

【委員】

そうですね。

【部会長】

では、そのようにまとめてみるということにいたしましょう。

それでは、次に、530番「産業コーディネーターの活用」です。意見を書いた委員は簡単に説明をお願いします。

【委員】

内部評価を見ていただければわかると思うのですが、事業概要のところ「区の産業施策の方向と具体的な実施事業等の有用性を確保するため」に産業コーディネーターを活用しているということが書いてあります。しかし、その割に、内部評価の内容は、産業コーディネーター

の人数がどうだとか、要綱を改正するだとか、報酬がどうだとか、そういうことだけですよね。先ほどの事業概要を踏まえれば、そういうことではないのではないかと感じました。内部評価の書き方の問題なのかもしれませんが。

【委員】

今の意見から話が外れてしまいますが、その他の意見のところに、フォーラム・研修会・ネットワーク・統廃合がどのように展開するのか楽しみだという意見を書いたのですが、嫌みのようにも受け取れるので、この意見は取り下げたいと思います。

【委員】

私はこの意見が嫌みだと思いませんでした。むしろ、すごく応援されているのかと思いました。

【部会長】

今のご意見を、先ほどの意見と合わせて、こういう総合的な取り組みをきちんとやっていくことこそが大事なのであるという意見にすればいいのではないかと思います。

他にも意見を書かれた委員がいらっしやいますね。

【委員】

私も意見を書きました。産業コーディネーターの方がお二人いて、そのうち1人が既に産業振興会議の委員で、もう1人はそうではない。

内部評価を見ると、有識者、専門家のような方々なのかなと思う反面、ヒアリングの際には、実動的な印象を受けました。私の記憶違いでしょうか。あと、ビズネットやビズタウンの編集などに対してもアイデアの提供を受けているとおっしゃっていたような気がします。

そのため、ある意味、職員の方のすき間を埋めるような働きをされていて、よく言えば便利ですが、でも立ち位置がはっきりしないし、会議体に入っていない方もいるとあって、立ち位置がどっちつかずのような印象を受けました。

【委員】

私もそのように感じました。だから、手段の妥当性のところに、どうにも納得できないと書かせていただきました。もっと、現場というか、新宿区の今の状況というか、そういうものに応じたコーディネーターが必要なんじゃないかと思ったのです。

【部会長】

産業振興会議のメンバーとなるかどうかというのは、この会議の性質によると思います。ただ、私としては、あの会議の性質がいまひとつよくわからなかったのですが。

【委員】

ですから、基本的な方向性は会議体でももちろん検討して、それにのっとってもう少し実務レベルのところを実践していくうえで、この産業コーディネーターの方々が、職員ではやりきれない部分を埋める役割を担っているというふうに受け取ったのです。

【部会長】

産業振興会議というのは、もっと高い位置にあるスーパーバイザー的な委員会なのであれば、

すべてのコーディネーターが委員になるというものでもないのではないかと思います。ヒアリングを聞いていました。そう言われれば、ヒアリングのときのニュアンスは、産業振興会議に2人とも入ってもらったらいという感じだったような気がします。

【委員】

産業振興会議というのは条例で設置が決められているものですか。

【事務局】

はい、条例によるものです。内部評価を見ると、産業振興会議の委員の枠が決められているようです。

【部会長】

産業コーディネーターが入る枠って、どれにあたるのでしょうか。

【事務局】

学識経験3名の枠だと思います。

【委員】

内部評価を拝見したときも、この産業コーディネーターがどういう役割を担っているのかということが抽象的でよくわからなくて、所管課もそういうところを気にしているのではないかという気がします。

【部会長】

産業コーディネーターのような方々が、然るべき機関にきちんと入って、実務的な議論をするべきものとして設置されているのであればいいのですが、実態は全く異なるということだと困りますね。

あと、産業コーディネーター2名というのは、2名で頭打ちというわけではないでしょう。確か、もっと枠を増やしてもいいということをおっしゃっていたのではなかったでしょうか。産業振興会議委員における学識委員3名という枠に入りきらないぐらい産業コーディネーター多くなると、全員入ったほうがいいという意見は、少し言いにくいと思います。

いずれにしろ、産業振興会議がどういう会議体かここではわかりませんが、そのような会議体で出された内容をどう具現化していくかということに産業コーディネーターの方々が関わってくるのだとすれば、その連携がどのようになっているかということが一番大切だと思います。そういうような方向で意見をまとめることといたしましょう。

では、次は539番「産業創造プランナー」です。

【委員】

これは、先ほどの産業コーディネーターとは違うのですよね。

内部評価を見ると、ここでいう産業というのは、文化創造産業というものに限定されています。そういう前提で議論をしないといけないということが、私は非常に気になりました。文化創造産業というのは、エンターテインメント産業、コンテンツ産業、音楽産業、デザイン産業、ファッション産業と、内部評価に書いてあります。産業ととらえて、その産業の創造ということで考えると、それが地域経済の振興などに対してどのように機能していくのかということに

ついて、所管課はどのように考えているのでしょうか。

いずれにしろ、こういうような人材を活用して文化創造産業の振興を図っていくということは、少し限界があるのではないかと思います。NPOなどに任せるならまだしも、プランナーとして抱え込んでやっていけるのかなという感じがしました。

【部会長】

前途有為な専門的知識を身につけた人を週5日30時間という条件で雇用していて、ただ、そういう人がこの職を終えた後もステップアップしていけるようになる必要があると思います。それは新宿区の責任ではもちろんないのですが、そう考えたときに、芸術系の大学や経営系の大学・大学院などを出た方が、新宿区の産業創造プランナーになって、その後ステップアップして自分の生涯を歩んでいくというふうに考えたときに、ヒアリングの際にプランナーを何でも屋的に使っているという反省が聞かれたので、もう少し専門性を発揮でき、かつ、育成されていくようなプランナー業務にしないとイケないのではないかと、私は強く思ったのです。

【委員】

ビズタウンニュースをプランナーと一緒に編集しているとヒアリングで聞いたのですが、こういう有能な方々をそういう業務に使うのはもったいないような感じがします。もっと別の、本当に産業育成事業に使ったほうがいいのではないのでしょうか。

【事務局】

内部評価を見ると、ビズタウンニュースの発行回数を事業指標として設定しています。こういうことも確かにやっていると思いますが、実際にはこういうことだけではないと思います。

【部会長】

そうですね。この指標設定はプランナーに対するイメージをゆがめていますよね。具体的な業務内容がよくわからないので、意見としては、プランナーの専門性の明確化が留意されるべきだという抽象的な意見に留めました。

【委員】

余り抽象的だと、所管課がわからないのではないのでしょうか。

【部会長】

ヒアリングでのやりとりで、その辺のことは相手に申し上げたような記憶があります。

他の委員のご意見はどうでしょうか。

【委員】

そうですね。先ほどの産業コーディネーターというのも混乱しましたが、これはさらにわかりにくかったです。わかりにくいのはなぜかという、先ほどお話があったように、この事業の目的は、単に産業ということではなく、カルチャー系産業というものをもっと伸ばすということが目的なのに、いわゆる便利屋のような使われ方をしているというか、何か整理されていないというか、そんな印象をもちました。

【委員】

結局、内部評価の多くが「要改善」になっているので、こちらとしても「適当である」とい

うことになってしまいますよね。

【部会長】

しかし、「要改善」の方向性が本当に我々と一緒なのでしょうか。ひょっとしたら同床異夢なのではないかという不安があるので、意見が出ていることだと思うのですが。

【委員】

ここでいう「要改善」というのは、どう改善するという意味でしょうか。

【委員】

この意味は、今年度は3人から2人に減らしてしまったけれども、来年度は逆に2人から3人にするという意味の改善なのでしょうか。

【事務局】

確か、24年度に3人から2人に減らしたと、ヒアリングのときに言っていたように思います。

【部会長】

縮小するのではないわけですよね。

【委員】

何か、意味がよくわかりませんね。

【委員】

もう少しわかるように書いていただきたいですね。

【部会長】

では、今までの意見をまとめて、新宿区がこの文化創造産業の育成と振興に取り組むのだから、産業創造プランナーの配置や力量などをしっかり考えて、事業の効果が出るように頑張ってくださいというような意見を付けることとしましょうか。

【委員】

そういう姿勢は感じられるから、頑張ると言うのはいいのではないのでしょうか。

【部会長】

そうすると、色々な意見がすっきりとしますね。

勤務条件から察するに、これからこの分野で伸びていこうとしている若い人を臨時に雇用するという雰囲気、先ほどの産業コーディネーターというのは、割と成功した方がやっているというイメージをもちました。ただ、内部評価が簡略的に書かれていて、そういうイメージがちょっと形成しにくいですね。

今後推進していかれることを期待するというようなトーンのまとめ方がよろしいかと思いません。あと、他に何かありませんか。

【委員】

その他意見のところに意見を書いたのですが、この意見は取り下げます。逆に、もし可能であれば、こういう意味合いの意見を入れていただければと思います。というのは、文化創造産業の育成と振興ということが、産業創造プランナーの主たる役割ということであれば、それに見合った指標設定と方向性等の記載をしていただきたいということです。

【部会長】

目標や指標の立て方等も含めた、内部評価の記載の仕方についてのことですね。

【委員】

そうです。予算事業シートの方向性の内容に、検討用資料の収集及び作成など、もっと職務内容を拡大したいというような記載があるのですが、育成と振興のところとリンクした表現にしていただかないと、産業創造プランナーが書類づくりしている方のように誤解をされるという気がします。

【部会長】

内部評価の書き方への注文ということですね。

【委員】

実際になさっていることの中身がはっきりわからないので、本当に資料づくりだけなのかもしれないのですが。

【部会長】

そうですね。

【委員】

いかに、その資料の収集と作成が、文化創造産業の育成と振興に必要なのかというところを言及していただかないと、これを一般区民の方が見ても、同じように思われてしまう恐れもありますから。

【部会長】

むしろ、情報収集分析というと、また大分印象が違うと思うのですが。

【委員】

実際の文化関連企業の情報をこれだけ収集したというと、やっぱり収集件数というのでしょうか。これだけの文化企業を調べて、それをビズタウンニュースに載せる、あるいは、それを会議の資料に載せるというと、これだけの件数の情報を集めて提供したという数が実績ということになるのではないのでしょうか。

【部会長】

では、この事業については、部会としての方向性が大体合ったということによろしいでしょうか。

経常事業評価については、これで部会での審議を終えることができました。

今日はこれで閉会します。

<閉会>